

臨床研究・調査の概要

研究課題名	Open wedge 高位脛骨骨切り術術後感染の危険因子の検討
研究の概要	<p>【研究の目的・意義】</p> <p>ロッキングプレートを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術(Open-wedge high tibial osteotomy:OWHTO)は内側型変形性膝関節症(内側型膝 OA)や大腿骨内顆骨壊死(osteonecrosis:ON)に対する手術療法として良好な短・中期成績が報告されている。一方で軟部組織の薄い脛骨内側にプレートを設置するため、術後感染に関する報告も散見される。しかし術後感染の危険因子について検討した報告は少なく、OWHTOの手技に関連した危険因子の報告はない。本研究の目的は当院におけるOWHTO術後感染の危険因子について調査することである。</p> <p>本研究の成果は、OWHTOにおいて最も重篤な合併症とされる術後感染の危険因子について検討することで、術後合併症を予防し病状説明や良好な術後成績につなげることができる。</p> <p>【研究対象者】</p> <p>2006年1月から2019年12月までに当院でOWHTOを施行し、術後1年以上経過観察可能であった患者。</p> <p>【研究の方法】</p> <p>研究期間は、承認期間から2021年9月末日までとする。</p> <p>2006年1月から2019年12月までに当院でOWHTOを施行し、術後1年以上経過観察可能であった患者を対象とし、術後感染率、感染時期、起炎菌の種類、感染の危険因子を評価した。危険因子として、年齢、性別、BMI、開大幅、プレートの種類、喫煙歴、糖尿病の有無、手術時間、皮切方向、プレート設置位置、遷延癒合を調査した。プレート設置位置は術後CTで計測し、脛骨前後軸(anteroposterior length 1:AP1)における近位プレート中央部の前方からの距離(AP 2)の比率:AP2/AP1をプレート設置位置、近位最後方スクリュー軸と脛骨後面の接線の角度をスクリュー角とした。</p> <p>本研究は、通常診療の範囲内で得られたデータを用いて実施する観察研究であるため、研究参加による特別な被験者の不利益はない。</p>
研究資料の入手・閲覧	<p>研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。</p> <p>研究資料の入手・閲覧を希望される方は次へご連絡ください 富山市民病院 診療科:整形外科 役職:医師 氏名:河合燦 TEL 076-422-1112(代表) FAX 076-422-1371</p>

	e-mail jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp
個人情報の開示に係る 手続	富山市個人情報保護条例に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。
相談等への対応	研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。